

#1 回 Head of the ARA 開催の報告

HoA 実行委員会 氏家 祐二
2006 年 12 月 3 日に荒川（大曲から戸田橋間の片道 6km）で実施した#1 回 Head of the ARA（以下 HoA と略称）について報告致します。

1. 荒川で漕がなくなった戸田クルーはひ弱に？：

荒川は昔に比べると水も奇麗になって環境は良くなっています。しかし最近荒川に出艇するクルーが少なくなっています。どうやら手軽に出艇できる戸田コースに引籠り、少々手間の掛かる荒川出艇を避けている様です。しかしボートは Miles makes a champion です。短い戸田コースでは十分な練習は出来ません。荒川で練習するクルーが減ってきた為か、最近の全国大会における戸田クルーの戦績は、地方の川や湖で練習しているクルーに比べて相対的に弱くなっている様に見えます。

2. ヘッドレースを呼び水とし、荒川にボートを呼び戻そう：

最近、日本各地で川や湖を使ったヘッドレース（以下ヘッドと略称）が盛んになっています。荒川もヘッドをやるのに非常に良い環境なのですが、今まで誰も開催を試みなかった様です。もし、荒川でヘッドを毎年開催すれば、戸田界限のチームも自然と荒川に出艇する様になる筈です。また、川で漕ぐ機会が増えれば航行ルールや必要な安全対策を覚えるでしょう。同時に、多くの方が荒川に目を向けることで自ずと荒川的环境ももっと改善されるという、一石二鳥、三鳥の構図を思い巡らしました。

3. HoA 開催への経緯：

昨年 10 月中旬、日ボの役員さんとの立ち話で、荒川でヘッドを開催したいという夢話をしました。これが自分自身のトリガーとなり、その勢いで荒川でのヘッド開催に向けて走り出しまし

た。まずはヘッド開催の先輩である瀬田漕艇倶楽部さんに連絡を取り、大会開催の運営要領を教えて頂きました。これを手本にして HoA 開催概要案を纏め、10 月末に戸田界限のチームや知人を集め、ささやかに準備会議を行いました。この席で「小ぢんまりでも良いので、今年中に第 1 回大会をやろう」と力強い賛同を頂きました。開催時期は 12 月中旬以降になると寒くなって大会運営が難しくなる事と、諸準備に 1 ヶ月程度を要する事を勘案し、最短の日程である 12 月 3 日に開催する事としました。この後急ピッチで大会要項を作成し、11 月上旬に要項をメールで発送しました。

4. 河川事務所との調整：

荒川でのボート乗艇は河川の自由使用扱いで届出は不用ですが、HoA は多くのクルーが参加するイベントであり、大会拠点の岸蹴り場の管理元である下流河川事務所に大会予定を連絡しました。大会概要を説明すると、「一部河川敷も使う様なので、河川敷一時使用願いを提出しなさい」と助言頂き、大会要項と合わせて一時使用願い書を提出しました。その後下流事務所から、「コースの半分は笹目橋より上流なので、上流事務所にも情報をいれておく」と連絡がありました。（荒川は笹目橋を境にして、管轄が下流と上流の 2 つの河川事務所に分割されています）ほどなく、上流河川事務所から本件に関する審議結果の連絡が入り、「会場水域には、タンカーターミナル、漁船及びプレジャーボート係留施設があり、イベントとして正式な許可は出せない」との回答。当方屈せず「今回のレースは通常的自由使用の扱い、即ち自己責任で実施させて貰います」と申し出たところ、河川事務所から「どうぞ事故の無いように安全にやって下さい」と了解を頂きました。下流河川事務所からも同様の連絡があり、自由使用扱いで実施することで了解頂きました。

5. 荒川水域関係諸団体との調整：

HoA 開催で一番の課題は、レース中に他の船舶がレースコース内を往来して曳き波を立てない様にする事です。本件に関しては、①タンカー：レース当日にタンカー運航が無いことを確認し、②ウェイボード：荒川の戸田橋上流水域を活動場所とする 3 業者に御願いして大会時に戸田橋より上流に立ち入らない様に協力して頂き、更に③漁船及びプレジャーボート：②と同じ御願いをして協力して頂きました。誠意を持って御願いすれば、荒川を利用する皆さんは同じ荒川の仲間として心が通じる様です。

6. 大会本番：

大会要項発送後、2 週間でエントリーを締め切りました。蓋を開けてみれば 64 クルー、164 名もの申込みがありました。運営の方も出漕団体からスタッフを出して頂くと共に、知人などを介してボランティアを募り、運営スタッフ 45 名を確保出来ました。レース中の安全を確保するために手製のブイを製作し、更に各団体に御願いして警戒・救命用のモーター 6 艇を確保して本番に臨みました。大会当日は、少々気温が低めでしたが、良く晴れて風も無く穏やかな絶好のコンディションに恵まれました。予定通り 8 時過ぎに各艇が岸を蹴って出艇してゆきました。60 艇ものボートが一度に荒川に漕ぎ出す光景は壮観でした。スタッフや出漕クルーの皆さんの協力により、レースは予定通り進行し、10 時半には警戒艇や大会スタッフの皆さんも含めて全ての関係者が無事岸に上がって来ました。漕ぎ終えたクルーの表情を見ると、皆さん楽しんで頂けた様で大会成功を実感しました。レース結果もタイム計測システムが確り機能し、早々に私の元に記録の一覧表が届きました。結果は 11 時前には表彰式会場の張り出し、関係者の皆さんにタイムリーに知らせることが出来ました。12 時からの表彰式後、運営スタッフの有志に集まって頂いてささやかな反省会兼懇親会を行い、

第 1 回 HoA は無事閉会しました。

7. 関係者へのお礼と今後の抱負：

今回は準備期間も短く、突然の HoA 開催ではありましたが、多くの方々から絶大なご支援を頂き、大会を成功させることが出来ました。この場を借りて関係者の皆様に御礼申し上げます。HoA は今後も毎年開催し、行く行くは河川事務所や近隣自治体と一緒に楽しめる荒川のお祭りにして行きたいと思えます。

以上

#1 HoA レース記録

<男子エイト>

1. 明治大学 19'42"
2. 慶応大学 20'10"
3. 法政大学 20'32"
4. 一橋大学 A 21'10"
5. 一橋大学 B 21'31"

<男子エイト(40 歳以上) >

1. 淡青会 22'25"

<男子舵手付きクォドルプル>

1. 東京医科歯科大学 22'47"

<女子舵手付きクォドルプル>

1. 法政大学 23'44"
2. 東京大学 24'51"

<男子舵手付きフォア>

1. 一橋大学 A 22'07"
2. 東京大学 A 22'27"
3. 一橋大学 B 22'36"
4. 東京大学 E 22'58"
5. 東京大学 D 23'12"
6. 東京大学 C 23'25"
7. 法政大学 23'31"

- 8.東京大学 B 23'35"
- 9.一橋大学 C 24'15"
- 10.パルテ会 25'19"

<男子シングルスカル (40歳以上) >

- 1.淡青会 (小口) 27'41"

<男子シングルスカル>

- 1.明治安田生命 (光岡) 23'18"
- 2.日本大学 (依田) 23'30"
- 3.明治安田生命 (浜田) 23'37"
- 4.日本大学 (奥村) 23'43"
- 5.日本大学 (寺島) 23'46"
- 6.明治安田生命 (岡山) 23'50"
- 7.日本体育大学 (小谷) 23'54"
- 8.日本大学 (兼平) 23'55"
- 9.日本大学 (岸本) 23'58"
- 10.日本大学 (石田) 23'59"
- 11.明治安田生命 (中溝) 24'05"
- 12.日本大学 (佐藤) 24'09"
- 13.明治安田生命 (中尾) 24'11"
- 14.明治安田生命 (長崎) 24'17"
- 15.日本体育大学 (西川) 24'18"
- 16.日本大学 (太田) 24'27"
- 17.日本大学 (高井) 24'30"
- 18.日本大学 (樋口) 24'31"
- 19.日本大学 (久村) 24'42"
- 20.日本大学 (小松) 24'50"
- 21.慶応大学 (北川) 24'52"
- 22.日本大学 (五十嵐) 24'53"
- 23.日本大学 (池谷) 25'01"
- 24.日本体育大学 (宮谷) 25'05"
- 25.日本大学 (本郷) 25'19"
- 26.日本体育大学 (島田) 25'23"
- 27.日本大学 (松家) 25'26"
- 28.日本大学 (残間) 25'34"
- 29.日本体育大学 (酒井) 25'56"
- 30.日本体育大学 (高橋) 26'57"
- 31.慶応大学 (喜々津) 27'06"

<女子シングルスカル>

- 1.明治安田生命 (藤阪) 26'06"
- 2.明治安田生命 (奥平) 26'24"
- 3.日本体育大学 (沖田) 27'17"
- 4.日本体育大学 (埜田) 28'11"
- 5.慶応大学 (丸谷) 28'20"
- 6.法政大学 (尾花) 28'52"
- 7.日本体育大学 (黒田) 30'55"
- 8.法政大学 (山瀬) 30'58"

<棄権>

明治安田生命 (湊、佐藤)、日体大 (外間)、慶
 応大学 (笠木)